

井戸端だより

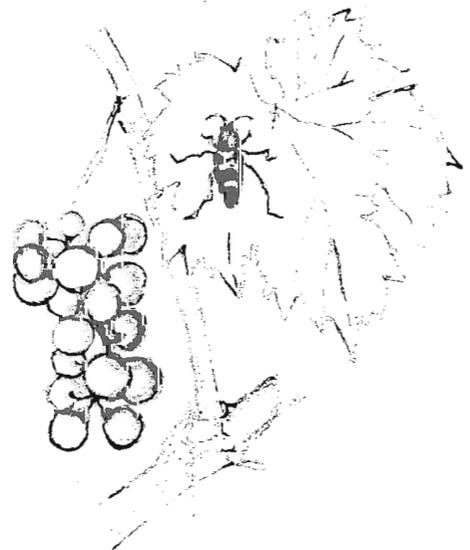
第90号

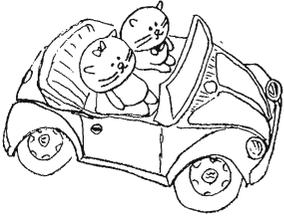
発行日：2015年6月30日

発行：くらしの学習会

目 次

4月例会報告	1
5月例会報告	4
6月例会報告	8
例会で訪れた地域 調べてみました	12
ジャコウアゲハ2015年4月～6月	13
過去に学ぶ	14
短歌	16
チューリップに癒やされて	17
愛宕山	18
ジャコウアゲハあれこれ	19
卒寿の祝い	20
雑感	22
新聞切り抜き	28
編集後記・お知らせ	29





4月例会報告

4月1日(水)久万高原町柳谷発電所(水力発電所)へ会員5名参加で、AM8時45分中央公民館を出発した。雨を心配しながら沿線の桜を楽しみながら国道33号を進む。途中、発電所への入り口を迷い、地域の店舗で教えていただき、離合も出来なさそうな道を川面に向かって下って行くと発電所事務所に到着。職員の方の道案内で車移動約5分、10時20分無事現地到着(見学予約時間10時30分)した。3人(全職員11人)の職員の方々が出迎えてくれた。

発電所屋内で発電所のあらまし・特徴をパネルや模型で説明を受ける。
※<あらまし>仁淀川水系黒川にあり、明治、大正年代に築造された流れ込み式の黒川第一、第二、第三発電所が設備的に老朽化したことから3発電所(出力合計6,550kW)を廃止し、貴重な国産エネルギーである水資源の有効活用をはかる観点から柳谷発電所として再開発された。高さ28.5m、有効容量150,000m³、の調整能力を持つ柳谷ダムから最大13m/sを取水し、有効落差211mをもって23,800kWを発電する水路式発電所。この発電所は、無人で高知市の高知系統制御所より遠方管理制御をしており、発電した電力は、66,000Vの送電線で大渡発電所を経て佐川発電所へ送電されている。
<特徴>ダムの減勢工は、バップルピアとエンドシルを組み合わせた強制跳水式を採用、減勢池長を短縮している。発電所型式は、半地下立坑式で水圧管路、放水路サージタンクを同一断面に取り込み小判型としている※

説明を受けたフロアーでは、地下約65mに据付られた発電機を真上から見下ろすことができる。ゾットする深さだ。エレベーターでその場所まで移動。話し声が聞こえないほどの音がする。

※<発電のしくみ>①柳谷ダム→②導水路トンネル→③導水路サージタンク(発電開始や休止の運転操作時に水路内に生ずる圧力を調整する)→④水圧管路(サージタンク～水車間をつなぐ鋼管で水車を回すための太さを順次縮小させ水の流れを速める)⑤水車(最大24,400kWが出せる水車=縦軸渦巻フランシス水車=で、半時計方向に毎分600回転する。水力発電の”心臓部”と

もうべき水車の役目をする物を「ランナ」と呼ぶ。平成元年に運転開始をしたこの発電所は、電力需要に合わせ発電量を調整する役割を担っており、長年の運転で頻繁に起動・停止を繰り返したことからランナの劣化が進み、効率のよい新型ランナへの取換えを2014.2月取換え工事を実施した。今回の取換えにより、今まで以上に水を無駄なく活用でき、発電出力も800kWアップした)→⑥発電機(水車の出力を電力に変換する装置=縦軸三相同期発電機=で水車と直結され出力23,800kW電圧6,600Vの電力を発電している)→⑦放水路トンネル(発電に使用した水は面河第三調整池内へ放流)⑧発電所・屋外開閉所(発電した電力は屋外から高知方面へ66,000V k送電線送り出される)

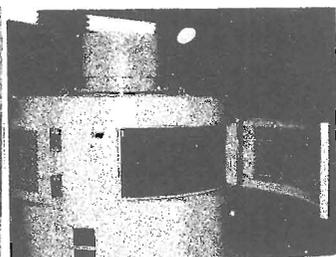
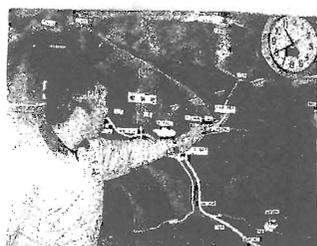
二酸化炭素を排出せず繰り返し使える再生可能エネルギーが注目される中「水力発電」の重要性が高まっている。四国電力では今後58か所ある水力発電所を最大限にするとともに、設備更新機会をとらえ発電効率の向上に取り組み、大切な水資源を有効活用し、安定した電気を届けられるよう取り組んでいく。※(※内は柳谷発電所パンフレット・ライト&ライフ2014.4.5より)

ここからは見学しながらのQ&Aについて。

*平27年3.31発行「四国電力の水力発電」によると、明治36年、湯山第一発電所(松山市食場町)が四国初の水力発電所として建設された。

*「水力発電所」は、部品の交換などはあるが約70~80年使用可能。柳谷発電所は平成元年に運転開始、26年経過している。ちなみに、「火力発電所」は、昨年見学に行った西条発電所1号機が49年が経過し老朽化により取替える計画を発表した(出力15万6千kW→50万kW)ということは約50年が使用可能年数となる。

*四国の山は急傾斜なため、山に降った雨が下流に早く流れてしまい水力発電にはどちらかといえば不向きな地域だが、吉野川・那賀川・仁淀川では、豊富な降水量と急峻な地形を利用し早くから水力開発が行われ、水力発電のうち約9割(出力比)が、これらの水系に建設されている。雪の多い地方の方が雪解け水の利用で年間を通し水不足の心配をせず発電ができるので寒地の方が向いているようだ。

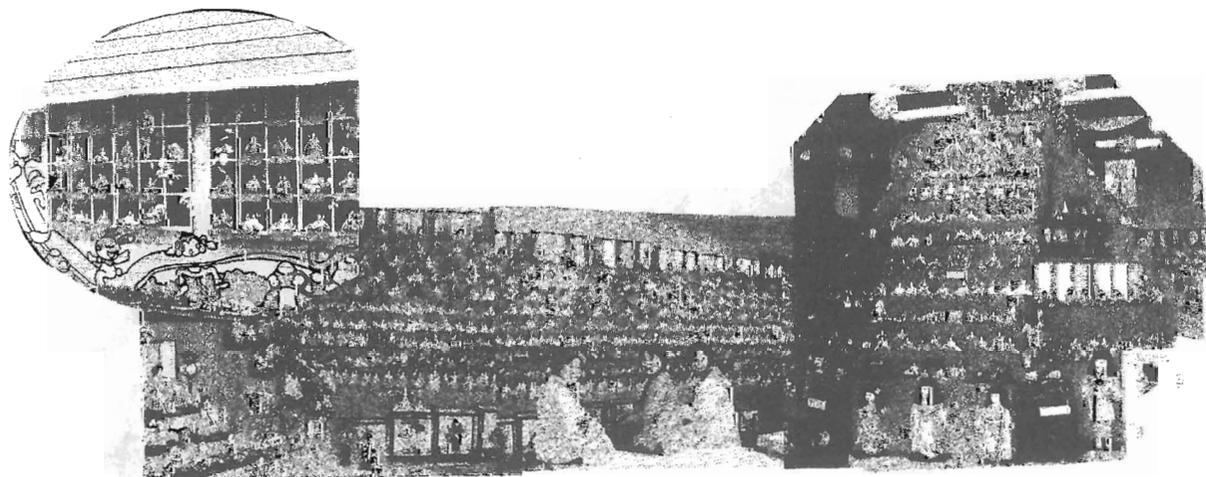


この後、車移動で約10分、柳谷ダムへ。仁淀川水系の支流黒川を重力式コンクリートダムでせき止め、有効容量15万m³を貯水している。冬場は降雪が多く、放流時にはパトロールを行い、下流河川の安全確保に努めている。山の清々しい空気は気持ちもリフレッシュ、見学の予定時間12時も近付きダムを後にし国道33号で左右に別れ、私たちは久万方面へ。

道の駅「清流の里さんさん」でバイキングランチの昼食。せっかくなので、産直野菜の買い物を楽しむ。その後、久万町商店街で開かれている(2/22～4/26)「第一回くままちひなまつり」を楽しみに役場駐車場へ移動。

小雨降る中、商店街の店先に思い思いの思考を凝らしたお雛様。歯科医院ではハブラシヤデンタルミラーを手に持ち、ブランコに乗ったり、ソリに乗ったり、お櫓の船に乗ったり、思いがけない所に入形を見つけ楽しめた。年代の流行を感じられる正統派の段飾りも数多く飾られている。圧巻は、マスコミなどでも取り上げられていた「2000体のひな人形ピラミッド」高さ3m近いピラミッドにぎっしりお雛様が並べられ、その回りの壁面にもずらりとならんでいる。傷みはあったが明治期の格調高いお内裏様、腰の高さも有ろう市松人形、様々なケース入りの人形など、4000もの目に見つめられる事はそうは無い経験だった。昔の賑やかさを取り戻そうと、住民の皆さん総出で手作りの雛祭りに参加をし、元気や笑顔に繋がり、住民も観光客も皆で楽しむことのできるイベントが毎年巡ってくる事を願いつつ商店街を後にした。

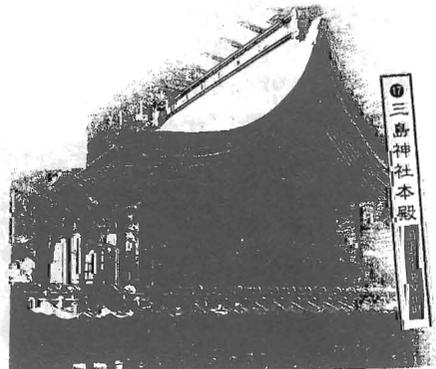
あまりよい天気ではありませんでしたが、初めての「水力発電所」見学を無事終えることができ、狭い道を迷いながらの運転をしてくださった日さんありがとうございました。(A. M)



5月例会報告

5月12日(火)新茶の季節でもあり四国中央市新宮の「霧の森」へ出かける予定だったが、台風6号接近により中止になった。そこで、5月26日(火)都合の付くメンバー3名で東温を通る街道の一つ「金比羅街道」の道筋にある神社仏閣と樹木を巡ることにした。2013年6月、東温市内に残る豊かな自然をカラー写真で紹介する「東温の自然」と、歴史・史跡をまとめた「東温街道紀行」のガイドブック2冊を刊行している。今回それらを元に「金比羅街道」と「井内の棚田」を巡ることにした。街道筋にある道標や常夜灯を頼りに歩くのが本当なのだが、井内へも足を伸ばす予定だったので日さんの車での巡る活動となった。東温市発行「東温ナビゲーション」を道案内資料に中央公民館を10時出発。

まず、神社仏閣をめぐる前に資料を見ていて気になった「北方鉱泉」へ。現在は道路脇に簡単な水栓施設があるだけだが『川内町誌』によれば、本鉱泉(当時は川内鉱泉と呼んだ)の発見は古く、小溪に露出する砂岩頁岩互層の割れ目から自噴泉水が硫化水素臭を有することから道後温泉によく似た鉱泉と推測し、明治24年頃付近の民家で浴用に利用され、大正10年には現場付近にバラック小屋を作り共同浴場として利用していたが、地の利の悪さ・施設の幼稚不備で発展を見ず絶えた。その後、昭和初期7、8年頃再掘削を行ったが昭和20年の水害によって埋没した。が、埋没の窪地から泉水が自噴し続けていた。戦後も皮膚病に効くと器に汲み取り持ち帰って浴用に使われていたようだ。ところが、温泉ブームや昭和33年川内ゴルフ場の開設によりこの鉱泉が再度注目され、昭和35年から泉水の分析依頼・源泉確保のため諸般の地質学的調査研究を行い、第一第二源泉を試掘毎分湧出量百立が確保でき、浴場は源泉から近い大興寺境内に建設、昭和37年10月落成「川内温泉」が誕生。昭和40年頃まで賑わったそうだが今はもう無くその名残が「北方鉱泉」として地図に記されている。



地図に沿って「医王寺」へ。境内にあるサイカチ（かわらふじのき落葉高木。葉は互生、棘が多い、夏には淡黄緑色の小花をつけ、秋には長さ30cm余りの平たい豆果をつける）ボダイジュ（支那原産の植物。葉は互生、卵形または三角状卵形のゆがんだもので先はとがり、基部は斜めにゆがんだ心臟形。夏に淡黄色の花を付け実の付き方がおもしろい）植物観察をし建物を見て回る。ここには国指定重要文化財「医王寺本堂内厨子」がある。寺院では仏像や経巻を安置するところを厨子と呼ぶ。医王寺の厨子は入母屋造・妻入で屋根はこけら葺。それらの技法、様式は禅宗様式といわれる唐様の特徴を表わし鎌倉時代から始まった様式で室町時代の秀作とされている。今回は連絡をしていなかったので見学は出来ませんでした。※東温ナビゲーションとサイカチ・ボダイジュ（木の名は図鑑をもとに判断）は牧野植物図鑑より※

次は「揚神社」へ。ここには目通り7.8m、高さ36mのくすのきがあり市内にある名木中最も大きいもの。幹は地上数メートルで二幹にわかれ、枝張りの位置が高いため仰ぎ見ると威圧感を覚える。

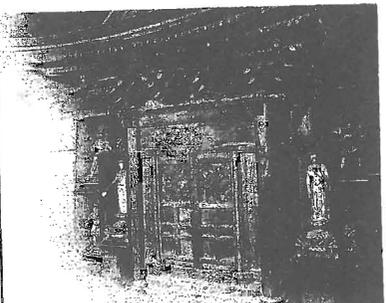
次は「川上神社古墳」へ。大正2年に発見された県指定史跡の古墳は横穴式、巨石を使用、出土品などから7世紀中頃（大化の改新）の終末古墳であるといわれている。ここからは県下出土の中でも最も多い馬具が出土しており、被葬者は松山平野において極めて有力な首長の一人であったと推定されている。石室全長7m以上、ここからは四人の遺体が出土したらしい。そのうち一体は頭骨のみが壇上に安置され、その前から馬具、須恵器、耳飾り金環、銀環、ガラス玉類の埋葬品が出土した。出土品の一部が川上神社社務所に保存されている。今の石室は草に覆われ崩れかけているとも言われている。

※東温市の文化財より※

次はちょっと視点を変えて、田植えの終わった井内の里山へ。「東温の自然」の撮影者S氏が撮った「井内の棚田」夏・秋・冬景色の定点写真が素敵で、その場所から眺めてみたかったのだけが見つめることができず、が、山道を上る道すがらにも田植えの終わった棚田を眺めることができ、清々しい空気に癒された一時となった。



⑦ 医王寺本堂内厨子



井内の里山を後に、次の目的地 国指定 重要文化財「三島神社本殿」へ
ここの 県指定 有形文化財「木造隨身立像」も見所。三間社流造銅版葺の本殿。南北朝時代の建立とされ、三間社流造としては県下最古のもので、本社である大山祇神社の本殿とよく似ていて、原形をなすものだといわれている。また、神社の隨身門（隨身とは、かどもりの神の事）三間一戸建の隨身門の前1間の向かって右側に矢大神を置き、左側に佐大神を置く。矢大神は矢を背負うた衛士、左大神は冠をつけ兵杖を帯びた姿をしている。この両像は通路に向かって立っている珍しい例である。後の1間には写實的に整った木製で色彩あとを残す阿吽一對の狛犬（市指定 有形文化財 からしし、こまいぬの違いは、こまいぬには角があり、耳を立て毛並は直毛で口は結んでいる。からししには角は無く、耳は垂れ巻毛でくちは開いている。制作の年月は不明だが材質が似ている随神像の制作の時代(1359)の頃ではないかと思われる。石造に比べて肉感があり表現が精緻で温もりがある。風雨にさらされた跡がないことからどこに置かれていたものかは分からない）と、これも彩色された別の隨身像も一對あり、これらも向かい合って立っている。このようにいくつかの像造がある事から、随神門のほかにも別の建物があったのではないかと思われる。※東温市教育委員会発行 東温市の文化財より※
以前から国道を走りながらここの立派な社殿を目にしている気が掛かっていた神社だったので訪れることができ、会報報告を書くにあたり色々な参考資料を読みながら現地で知り得なかった事を知ることでもでき、よい機会であった。

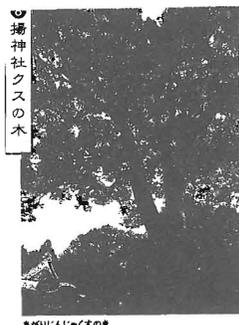
予定した見学地を回り終え昼食を取るため「さくらの湯」へ。ここの温泉はお湯がいいと人気のある温泉だが三人とも初めて足を踏み入れる場所。食事のできる場所を受付で聞き食堂へ。温泉から上がりのんびりと過ごす人々と共に名物の親子丼をいただく。食事をしながら次回例会のこと等を話し合い、午後もあらかじめ調べてあった見学地を巡ることにし、出発。

11号線を桜三里方面へ。494号線へ曲り10分ほどで隣り合わせにある「松尾山金比羅寺」と「惣河内神社」に到着。まずは「金比羅寺」へ。長寛年間

(1163年頃)の創立で称明寺と称したが、慶長年間に金比羅降臨の奇瑞があったとして金比羅寺と改称した。寺の本堂の前には加藤嘉明公の手植といわれる4本の杉がそびえている。本堂の上がり口に座り仰ぎ見ると、なおも旺盛な樹勢を保ちどっしりとした老杉の姿が境内の森に一層荘厳の感を与え、心に迫るものがある。この日の気温は30度近く、陽のあたる場所は夏の暑さだがここに居ると涼しく杉の香りが心地好い場所であった。

次は隣にある「惣河内神社」へ。鳥居をくぐると高い石段があり本殿へ上がる。そこから左へ進み石段を下りると、市指定有形文化財「一畳庵」がある。俳誌「柿渋」を創刊した松根東洋城(芸術会員)が昭和25年8月から1年3か月の間、この社務所の一畳を借りて住み、人間修行として俳句の境地を説き、門下の育成に専念した。境内には「山屏風 春の炬燵に こもるかな」「春秋冬 冬を百日 桜かな」の句碑が残されている。この参道の入り口にはブナ科の常緑高木で目通り6■、高さ11■葉の裏が白く見えることから「ウラジロガシ」と呼ばれる県指定天然記念物があり、県内でも数少ない老大樹である。※東温ナビゲーションより※

さまざまな東温市の史跡や大樹を巡り、こんなに見所一杯の我が市の再発見ができた例会となった。心地好い疲れを癒そうと、以前から気になっていたカフェへ。小さなカフェで駐車場も一杯。あきらめかけていたら、中から人がゾロゾロ出てきはじめたので駐車場が空くのを待って中へ。本業は海外のまきストーブを販売するお店だそう。そのストーブを使って焼いたパンやお料理を提供している。朝からずっと陽にあたっていたので冷たい飲み物を注文。ちょっと小腹もすいていたのでパンをお供にティータイム。まったり、のんびり出来る素敵な空間を楽しみ、5月の例会を終えた。Hさん、大雑把な地図を頼りに目的地を探しながらの車の運転お疲れ様でした。有意義な時間をありがとうございました。(A.M)



あがりしんしゃくすの樹



36じろがし Urajiro-gashi



こんびらしよんほんすぢ

写真『東温ナビゲーション』より

6月例会報告

6月16日(火) 5月例会で行く予定にしていた四国中央市新宮「霧の森」へ活動会員3名で出かけることになった。中央公民館を9時出発を予定していたが早めに集合できたので今にも雨が降り出しそうな空の下9時50分出発。

せっかくの遠出、「霧の森」だけでは勿体ないと「新宮あじさいの里」も予定に入れ高速を走ること1時間、新宮IC到着。料金所で「あじさいの里」の場所を聞き7km先の現地をめざす。あじさいまつりの赤い旗を目印に道幅が広くなったり細くなったりの山道を進めど進めど見えて来ない。郵便局で尋ねてみる。と、すぐのカーブを曲がった山腹に一面の紫陽花、到着。道路脇の縦列駐車場の最後尾に駐車をする。雨のウイークデーにも関わらず多くの人々が訪れている。約4畝の斜面(紫陽花を植えるまでは、細長い田圃で貴重な米を作っていたそう)に2万株の色とりどりの紫陽花が咲き誇る。登りは地域の皆さんが運営しているモノレール(みかんを運ぶタイプの物だが、これは山間に建てられる鉄塔の材料や機材を運搬するためにレールも太くパワーも強く作られた物を再利用しているそう)に乗り紫陽花の咲く急斜面をぬって登っていく。小雨の中、傘を差し、またがって座る座席は左右にガタガタと揺れ体は硬直し回りの景色を見る余裕など無い状態。なのに私の前席のKさんはカメラ片手にパチリパチリ。気持ちを切り替え恐る恐る遠くへ目をやると見事な花景色に怖さを忘れる。が、最高約45度の斜面に差掛かると恐怖は最高潮。5分程度の時間だったと思うのだが降りる場所に無事到着した際、少し足がガクガクしていた。紫陽花を愛でながらコンクリートの小道をのんびり下っていくと昔懐かしい茅葺き屋根の茶屋があり、椅子に座って紫陽花越しの霧に覆われた山々の景色や、姿は見えねどすぐ側で鳴いているであろうウグイスの声に心穏やかな気持ちよさを感じ、1時間余りの散策を終えた。

少し雨足が強くなり「霧の森」へ車を走らせる。駐車場に車を止め、馬立川に掛かる橋を渡り施設の中へ。こちらには、新宮の情報発信の場「ふれあ

い館」・レストラン・茶フェ・茶店・菓子工房・温泉施設・コテージからなる大型複合施設。早速「ふれあい館」へ。パンフレットや施設の情報を入手。その後レストランへ。食事の後茶フェへ立ち寄ることになっていたの、ヘルシーそうな名物の『活き水豆富』メインの定食を注文。茶そば・ひじき煮・茶葉の佃煮付きの漬物・ごはん、炭水化物多め。作立てのほの温かい豆富は甘みが強く量も多い。まずは何もかけず食べ、後は醤油・ぼん酢・茶葉ふりかけをかけながら頂く。私は塩をふってみた。甘みが増して美味しく感じた。茶葉ふりかけをごはんにふりかけるのも良かった。ごはんが多く満腹状態。12時過ぎ、食事を終える頃にはゾクゾクと食事を求め客が増えてきたので、菓子工房へ移動。

特産の新宮茶や工房のお菓子（全国的に有名になった霧の森大福・羊羹・ロールケーキ・プリン・ゼリー・生チョコ・フォンダンチョコラ・焼き菓子類）紙類の産地でもある四国中央市、和紙製品の御土産品も多数揃っている。それぞれ好みの物を購入。

その後、隣接施設の茶フェへ。入り口を入ると茶畑の景色が出迎えてくれ茶フェミュージアム（新宮の文化や伝統、新宮茶の歴史などここでしか知る事ができない情報、手もみ茶道場やお茶に関する図書を集めたライブラリーなどがある）私にとっては新宮茶＝わきの茶の方がしっくりなじむ。

1954年静岡から「やぶきた」の苗を入れ畑地で茶の栽培が始まった。1980年代茶農家の脇博義さんが取引していた愛媛県内の生協から”無農薬茶の生産依頼“があり、冬は氷点下8度まで下がる高冷地。越冬する害虫も少なく、農薬の回数ももともと少なかった。脇さんを中心に試行が始まり、土作り・肥料などの栽培方針が手早く作られた。全戸に広がるまでわずか3年。高冷地の”地の利“農薬不用による省力化、経費削減が大きな魅力となった。1985年から全村で無農薬栽培を実施。これまで3回害虫被害の危機があったが、天敵の発生などで難を逃れ「有機8割、化学肥料2割」の割合で秋肥だけを実施。※1996.8.28 鹿児島県南日本新聞・1990.11.29静岡新聞・脇製茶所より頂いた資料より※

その後、脇製茶園とは産地見学や産直交流会などを通し組合員との交流を続け商品への信頼を保ち続けている。私も3度産地見学に参加し、何度となく交流会などにも参加をしている。味の好みも合っているので、自分で購入する日本茶は脇製茶場の品のみである。紅茶も試作中とのこと、完成が楽しみである。『井戸端便り88号』10月例会報告で出てきた発酵茶「碁石茶」「阿波番茶」の展示もあり、匂いがかがせてもらった。それ程強い香りではないがお茶になったらどんな味なんだろう？

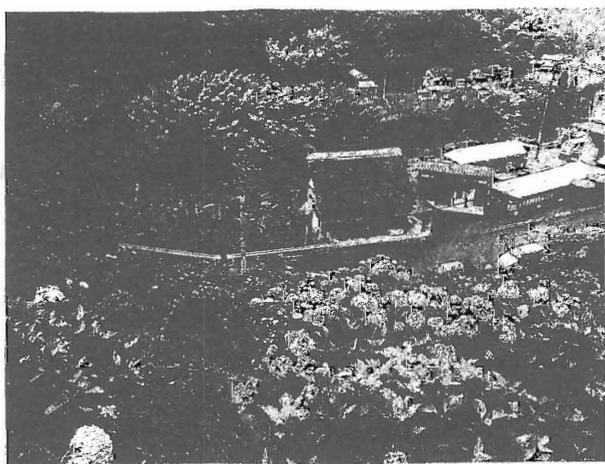
茶フェミュージアムを後に茶フェへ。古民家のようなシックで大人な雰囲気。椅子式の囲炉裏の席に座り、ちょっと複雑なメニューに悩みつつ注文。極上煎茶 八十八夜摘み とロールケーキ・極上かりがね とロールケーキ 極上煎茶 八十八夜摘み とフォンダンショコラ（濃厚なチョコレートケーキの中に抹茶ソースが入っていて、軽く温めているのでフォークを入れると抹茶ソースが溶けて流れだすケーキ。とても美味しかったので御土産に買って帰り今は冷凍庫に）

それぞれのお茶セットが運ばれてきた。急須・湯冷し用の器・湯のみ・ポット。①湯のみにポットの湯を入れる。②①の湯を湯冷し用の器へ移す。③急須に茶葉を入れる。④②の湯冷しを急須に入れ1分待つ。二煎目のためにポットの湯を湯冷し用の器へ入れておく。⑤湯のみに急須のお茶を最後の一滴まで注ぐ。空いた急須に湯冷しした湯を入れる。1分待つ必要はない。三煎まで美味しく飲める。八十八夜摘みの一煎目の色・香り・味（甘み・旨味）丁寧に入れた煎茶の美味しさをしっかり味わうことができた。三煎目を飲んだ後の茶葉の緑が鮮やかで、つまんで食べてみた。しっとりと柔らかく、ほんのりとした苦味が大人の味。そう言えば、道後温泉近くにある有名なまんじゅう屋で煎茶を飲んだ後の茶葉にポン酢をかけて食べている映像を見たことがある。茶葉を食べることによって、βカロテン・カテキン・ビタミンCやE・食物繊維など様々なミネラルを摂取することができる。

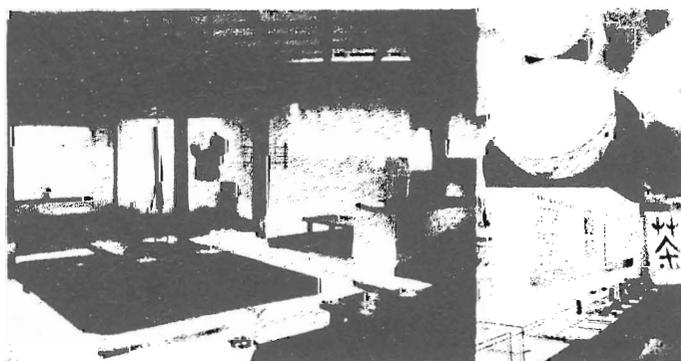
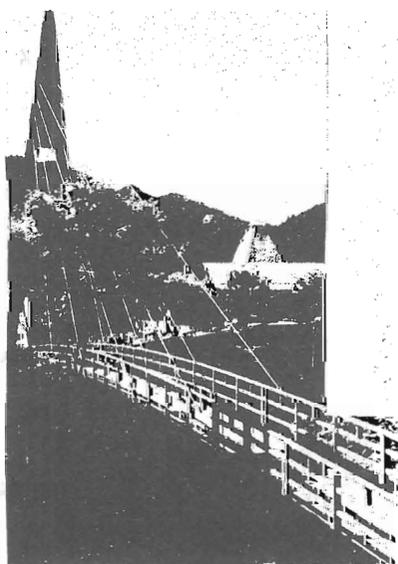
昼食に茶葉の佃煮が付いていたが、今朝、NHK「あさイチ」で作っていたのですが、急須に残った茶葉（新茶などのように柔らかい茶殻がよい）煮切り酒・煮切りみりん・しょうゆ・砂糖を小鍋にいれ、箸4～6本でかき混ぜ

ながら、中火で3分程度少し水分が残る程度まで煮詰め（冷ましている間に水分を吸うので）一晚程度おいて出来上がり。調味料の分量など表示が出なかったのも、甘辛い海苔の佃煮を作る要領で適当に。煮切る理由は美味しさのためらしい。適当な情報になってしまってすみません。

お茶や雰囲気を楽しみながら1時間近く、お喋りを楽しみゆったりとした時間を過ごした。客が増えてきたので、7月の例会の予定を決め、茶フェエを出た。駐車場に戻り「霧の森」を後に。高速で帰路に就き、16時前に東温市に無事到着。Hさん、梅雨らしくずっとしとしと雨が降り続く中での車の運転お疲れ様でした。そしてありがとうございました。(A.Ⅲ)



アジサイの里



霧の森茶フェエ

「霧の森」パンフレットより

……例会で訪れた地域 調べてみました……

6月例会で新宮の「霧の森」へ行った際、お茶を頂きながらの話の中で、今回発行する『井戸端便り90号』までに例会で結構様々な地域を訪れているが『井戸端便り100号』発行まで2年半の間に、すべての愛媛県内・四国内を訪れることができるかな？との話が出ました。そこで今まで訪れた地域を調べてみることにし、『井戸端便り1号～90号』の例会報告をすべて書き出してみました。結果、

市町村合併が2003年4月から始まり、二年四か月の月日を経て、70市町村（12市44町14村）から20市町（11市9町）に集約されましたので、合併前の70市町村ならば23地域、合併後の20市町ならば13地域 {四国中央市（川之江市・新宮村）・新居浜市・西条市（西条市・丹原町）・今治市（今治市・伯方町）・東温市（重信町・川内町）・松山市（松山市・北条市・中島町）砥部町（砥部町）・久万高原町（久万町・面河村・美川村・柳谷村）・松前町・内子町（内子町・五十崎町）・大洲市（大洲市）・西予市（宇和町）・宇和島市（宇和島市）}を訪れていました。70市町村では残り47地域もありとても無理ですが、20市町では残り7地域（上島町・伊予市・八幡浜市・伊方町・鬼北町・松野町・愛南町）です。

四国内では、高知県（伊野町M宅訪問・牧野植物園・仁淀川町しだれ桜）香川県（イサム・ノグチ庭園美術館・満濃公園・東山魁夷瀬戸内美術館）を訪れていますが、徳島県は訪れていません。

今後、行ける範囲で活動計画の中に入れられるといいですね。 (A.M)



愛媛県合併地図



愛媛 二十町 物語

ジャコウアゲハ (2015.4~6)

4月初旬。ガラス戸の向こうにジャコウアゲハが舞っている。陽射しを浴びてヒラヒラ、黒い羽根がひとときわ輝いている。戸を開け放ち一歩外へ出ると、どこからともなく次々と朝の挨拶をしに近づいてくる。

この子たちは、蛹で冬を越し、春先に羽化し、食草ウマノスズクサに卵を産みつけ、その葉っぱを食べて幼虫になりやがて蛹になりそして羽化し、やっと飛びだした。この蝶は年に3回発生する内の春蝶。今年も狭い庭で身近にジャコウアゲハの一生を見つめることが出来る。

その春蝶が卵を産み～幼虫～蛹を経て6月になると夏蝶として羽化し優雅に飛び回る。このサイクルの中で、なくてはならないものは食草のウマノスズクサ。

ウマノスズクサにたくさん産みつけた卵を見ると、小さな生きものの生命の神秘を楽しめるとワクワクする。一週間くらいで卵が2mmほどの幼虫に育ちウマノスズクサの葉っぱをかじり大きく育っていく。葉っぱが足りなくなると、長く伸びている茎までかじってしまうため、それより上は枯れてしまう。茎の先に3~4個が群がって必死に食べている団子状の光景は異様。その幼虫が4cmほどに成長するとウマノスズクサから離れごぞごぞと這い出し、適当な場所にとどまり2ヶ所で固定し蛹になる。その過程で孵化した幼虫がだんだん減って行くので不思議に思っていた。何かに食べられたのか、近くにいる蜘蛛や蟻を疑ってみる。

インターネット(ウィキペディア)で調べてみた。『共食いする』と出ている。ショック！！

『ジャコウアゲハは体内に、ウマノスズクサの毒(アリストロキア酸)を蓄積し、それで身を守っている。アリストロキア酸は、同時にジャコウアゲハの摂食刺激物質でもある。このためウマノスズクサの葉と同様に、アリストロキア酸を含む同種の卵や幼虫・蛹も幼虫の餌とみなされ食べられることがある。アリストロキア酸には、ウマノスズクサに広く分布する腎障害を起こす物質で発がん性があるとも言われている〜〜』と。またまたショック！！

考え込んだ。こうなると狭い庭で育てるのは少々無理な話なのかも。《蝶のくる庭》が出来たと喜んでばかりはいられないのかも。

(S・K)

過去に学ぶ

「歴史は繰り返す」という言葉があります。第二次世界大戦が終わってから 70 年、戦争をしないでやってこられたというのは、考えてみればすごいことです。しかし今、日本は再び戦争をする国に変わろうとしています。子供たちも若者もコンピューターゲームでの戦いと現実の違いを知らないし、安倍首相も戦後生まれですから戦争体験がありません。戦争の悲惨さが想像を絶するものだということを、皆、知らないのです。そのためか昨今の閣議決定などを見ていると、戦争への危ない道を歩み始めた感じがします。

この稿を書きながら遅きに失したかなと空しくなりますが、子や孫たちを二度と戦場へ送らないために世界平和を願って書かずにはおれないのです。

今回は学徒兵として昭和 20 年（終戦の年）に招集された池川啓司先生の体験談を掲載します。

(S.M)

私が愛媛師範学校 3 年（19 才）の時、見奈良駅で村人（婦人会・青年団）に送られて、米英撃滅を誓い出発したが、久米駅で空襲にあい電車が動かないので徒歩で松山駅に到着。それから国鉄で今治へ着き、連絡船で尾道乗り換え相模原^{さがみはら}へ集合し、簡潔な入隊・入校式が行われた。『久留米第一陸軍予備士官学校入校を認め、通信兵として相模原陸軍通信学校配属を命ずる』とあり、私は第三区隊に入官する。

約二週間後、私たちの区隊は移動することになった。到着したのは福岡県久留米第一陸軍予備士官学校。しかし八女郡黒木町に疎開し教育を受けることになった。

私達は二つに別れて通信の訓練を受けた。ある日、訓練後の休憩の時間に材木の上に座った。帯剣の下部が材木の上ののっていたのを知らなかった。部隊集合の急発信の号令で下に向いていた帯剣が脱刀したようだ。この事を寸分も知らず私は急いで隊の編成にもどった。

夜分の点呼で初めて気づき頭が真っ白になった。とにかく点呼は無事に通過した。その後皆が寝ている間に休憩した材木の所へ急いだ。そこに剣を発見した。本当に運が良かった。その時は無信心な私も「こんな事は地球上にそうあることではなく神のお救いに違いない」と思った。

又ある日、訓練を受けている時、にわか雨が降り出し軍服に灰がつき、黒いシミを残した。後にそれが新型爆弾（原爆）の死の灰であったことを知った。昭和 20 年 8 月 6 日広島に原子爆弾投下。8 月 9 日長崎に投下された。それを機に戦局は急

速に傾いていった

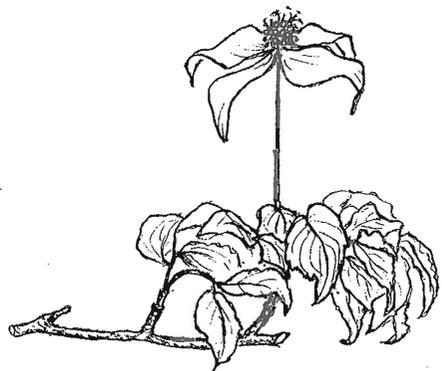
ある時、学徒兵の上級生が帽子をかぶって入室してきた。軍隊では入室したら脱帽することになっているので誰かが注意したら、上官に向かって何を言うか、連帯責任として対向ビンタをしいられた。互いに力をぬいて打っていたら、歯をくいしばって力を入れろと命令され、力つきるまでやらされた。とにかく、わけも分からずよくビンタを喰らった。

丁度この日も訓練中であつた。暑い暑い真昼の十二時、玉音放送があるとのことである。そして天皇自ら太平洋戦争の終結を告げられたのである。敗戦である。当時の我々が精神的にいかにか強い衝撃を受けたことが計り知れない。

解散する前日、上級生に仇取りをした。翌日、上級生数人が呼び出しに来たが、そこへは行かず汽車（無蓋車^{むがいしゃ}といって屋根が無い貨車）に乗って尾道に向かった。その途中広島原爆の傷あとなどという生やさしいものでない惨状を目のあたりにした。どの川にも黒こげの死体が浮いていた。体が焼けただれて溶けていた。人間がよくあんなことができるものだと思った。

隊を解散する時、靴下2本に米を給与され、お金（100円）位もらった。軍服・帽子・衣類一式を受領し、尾道経由で今治へ上陸すると「兵隊さん、ご苦労さん、お帰りなさい」と暴力団風の男が寄って着て荷物を持ってくれた。今治駅（国鉄）に向かうが、駅に着いても荷物はこなかった。

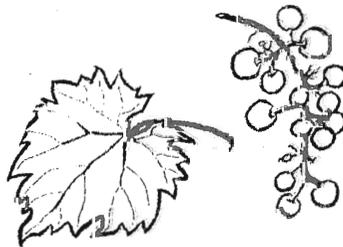
それから国鉄で松山に帰ったら、国鉄から県庁まで見渡す限り焼け野原だった。国鉄から市駅まで歩き、伊予鉄電車で見奈良の親の元へ帰った。今考えると兵隊の命なんか大事じゃなく消耗品扱いだつた。90才近くなり記憶も乏しくなつたが、残つたのは戦争に対する嫌悪の情だけである。二度と起こしてはならない惨事である。



短歌

- 素通りす宅配便のトラックは自分に送り偶には止まる
- プリムラとパンジイの花彩りて明るさわたる日本の園に
- 緊張の糸張り詰めて腰を振る仕草は同じ子猫も人も
- 黄花のみ束ねて活けた水仙は華燦燦とひと際明かし
- 雀蜂乾く軒下徳利型一度に二個も下がる菓もあり
- 大沼の公園に咲く水芭蕉果てしなく在り何処まで続く
- 函館の駅の市場のレプリカの蟹の多さよ海鮮丼の
- 烏賊づくし烏賊素麺と烏賊の飯伸し焼きソフトするめで決まり
- 煤煙で黒き雪割る春の花玄関先のサフラン律儀
- ゴメ達は波止に並び逃げもせで猫を睨めつけ羽伸ばし居り
- 吾が庭にコゲラの親子三羽来て枯れた伐り株縦に穿らて

(A・N)



チューリップに癒されて

姑の介護の為に仕事を終えてからだと思う。我が家の小さな花畑にチューリップを植え、春を待つ様になった。

秋に植える球根には水仙、ヒヤシンス、クロッカス、ムスカリなど数多くあるが、私はなぜかチューリップに惹かれる。可愛い芽が出ると「早く大きくなあれ」と毎日その成長を眺める日が続く。

暖かさを知っているかの様に二月終わりになるとぐんぐん成長し、大きくなった三枚の葉の間から花らしき三角の固く結ばれた蕾が現れる。この時はまだ何色か分からないが、気温が上がるにつれて蕾が大きくなり、少しずつ赤、白、黄色など様々な色が花弁と共に伸びてくる、この時が何とも言えない愛しさで笑顔になる。

これからは蕾がぐんぐんふくらみ一枚二枚とほどける様に開いてくる。朝夕には閉じ、昼間には大きく開いて「咲いた咲いたチューリップの花が」の歌を思い出し、一つ一つの花をなでる様に「ありがとう」と言う。

百球を植えた花は本当に美しく可愛くて、盛観である。近所の人には私の家の訪れ人にチューリップの家と教えたそうだ。こよなく愛するチューリップが近所の人や訪れ人をも楽しませてくれる。チューリップの花は、人の心を癒やす大きな力を秘めている。

この素晴らしく咲いた花も雨や風に弱く、一週間も咲くと花弁がちぎれるばかりに開いて今日一枚、明日も一枚と散って、真ん中に雌しべばかりが残る。残り終わりとなる。

この花の一生は私達人の生涯にも似ている。八十歳になった私も花弁が散るように、足腰が弱くなり、目が見えにくくなり、脳梗塞に罹り物忘れは多く記憶力も低く、花弁の様に黙って潔く散っていくことは出来ないのだろうかと思ったり、可愛い時も輝いた時もあったから、仕方ないとも思っている。

夏に向かう今は、花畑から掘り起こされた球根が茶色のうす皮に包まれ来年咲く花の準備をして、暗い所に大切に貯蔵されている。

私の人生も夫と家族を育て、今は六人の孫がピチピチの少年少女になり、次の世代を歩んでいこうとしている。夫は五年前に亡くなり私も終わりに近づいた今、孫達の花咲く日を待ち望みながら、穏やかな日々を送りたいものである。

(Sa.K)

愛宕山

京の都をゆるやかに取り巻く三方の山。青龍の巻くと歌った人がいた。低い山並が、ふとんを着て眠るがごとく盆地の京都をつくる。

924メートル、これが京都一高く信仰の山として知られる愛宕山である。プラス千メートルの愛媛の石鎚山からすれば、まことにおぼこい。しかし、京の人には、踏破困難の山として恐れを抱かせ、制覇したと言うだけで、ある讃嘆と、「何で？」と驚異の的となる。つまり成年男子の登る山なのである。

昔より3歳までに山頂の愛宕神社にお詣りすれば、一生火災の難を免れるとの言い伝えがある。年配の人は、赤子をおぶって愛宕に行ったという。愛宕神社は、火伏せ・防災の神であり『火廻要慎（ひのようじん）』のお札が有名。以前は、どの竈にも貼られていたのだろうが、今では町内で、大小のお札が配られている所もある。

5月の晴れわたる良き日、山いっぱいの新緑の中、表参道石段の道を、私も一度はと挑戦した。4kmの道程。100mごとに頂上まで標識がある。かの町石の如くである。どれにも登頂者への励ましと、火の戒めが記されている。「愛宕さん」と人は呼び、畏敬と親愛をこめる。

道中何か所かに、時ちょうどよろしく咲き誇る九輪草の群生が美しい。そこで足を止め、カメラを向ける人達。山中に山里に、絶滅危惧種の植物が、京都府により管理保護されている。原生の藤袴・片栗の花・いかり草等が山中にても観光京都のおもてなしをする。

先日、ご町内の防災担当より回覧がきた。お地藏さんのあたりから出火と想定。各戸に配られている赤い防火バケツ（空にして）を持ち、一列リレー・二列リレー・千鳥リレーと初期消火の訓練をする。各家の表には「我が家は無事です」と大きく書かれた黄色い安否のハンカチを貼りだす。

宇治の平等院が10回、東寺の五重塔が5回焼失。京都は幾度も大火に見舞われてきた。

比叡を仰ぐもよし、古えよりの愛宕さんに無事を祈るもよし、京の町の人々のくらしなのである。

(M. D)

ジャコウアゲハあれこれ

重信川の土手に、ウマノスズクサというツル性の草がはえている。黒いジャコウアゲハの幼虫がその葉を食べて育っている。群生地を5箇所ほど国土交通省重信川出張所の方に教えてもらった。ここ開発震もその一つ。昔から黒い蝶がたくさんいたよと地元の人から聞いた。

11年前私達がジャコウアゲハの保護を考えていた頃、トイレ周辺の道幅を広げる工事が予定された。ウマノスズクサの群生地の一部を削って広くすると聞いたので移植を申し出た。

4月下旬、許可をもらった場所に会員6名で汗かきながら50株ほど移植した。どれも草丈10cm位だったが次の日にはもうジャコウアゲハが産卵していた。この草の大きさだと卵から幼虫が出てきてもエサとなる葉が足りない、もう少し伸びるまでちょっと待ってよと言いながら、せっせと水やりに通った。2～3年は順調だったが根がうまく広がらなかったようで、そのうち枯れてしまった。でも近くにはもともとウマノスズクサが自生しており、そこそこジャコウアゲハの産卵は続いてきた。

その後も重信川出張所には何度か行った。年2回の土手の草刈りのときウマノスズクサの群生地だけでも草丈を5cm位は残してほしいとお願いした。出張所の敷地にもウマノスズクサがあつて、蝶の幼虫が育っていた。職員の方には私達が製作したジャコウアゲハの絵はがきを受け取ってもらった。

平成29年の愛媛国体で重信川河川敷がソフトボールの会場になる。国体用のトイレを設置する件で、東温市の教育委員会生涯教育課の課長さんと社会体育係の係長さん、総務部国体推進課の課長さんの3人の方から連絡をもらった。国土交通省の方から、ジャコウアゲハの保護をしているグループがあるので場所の確認をしてもらってくださいと言われたとのことだった。すぐに会って大きな株のある場所を説明した。その場所に工事が入ることになれば移植してもらえることになった。私達のささやかな活動に配慮してもらったことがありがたかった。

今日久し振りに現地に行ってみた。夏を前にして土手はもう草刈りが終わっていたが、地面からはウマノスズクサがたくましく伸びてきていた。まだ小さな葉に蝶がせっせと産卵していた。とても食草としては足りないけれど、そこは野生の知恵にまかせるとして。うれしかったのは河川敷にあらたに土を入れて整地した所からウマノスズクサが生えてきていたことだ。

(K.K)

卒寿の祝い

父が卒寿を迎えた。87歳から毎年父の誕生日を祝う会を続けているので、今回は4回目の会となった。両親、私たち、弟妹夫婦総勢8名が一堂に会し、お祝いの席を設け、大いに食べ、飲み、話し、一泊して次の日に別れるという形態の会である。名古屋に住んでいる6名と愛媛の私たちが淡路島、浜名湖、京都、そして今回は大阪に集った。新大阪駅近くのホテルを6か月前に予約し、この日を迎えたのである。

6月13日朝松山空港を飛び立ち格安航空ピーチで関西空港へ、飛行機内でたまたま目にした割引チケットを買い関西空港から南海電鉄特急ラピートでなんばへ（格安航空は航空料金を安くするためにこのようなものの販売でも企業努力しているのかと痛く感心）、難波から地下鉄御堂筋線で新大阪へ。そして会場のホテルへは暑い中徒歩で（ホテルのシャトルバスはあるが健康のため？）たどり着いた。

両親はすでに着いていて、一緒に来た弟夫婦は大阪観光に出かけていた。私たちは両親とホテルのレストランでお昼ご飯をとった。3月に妹の末娘の結婚式でも会ったが、父は血色もよく元気そうだった。この日の一つの目標に毎週デイケアセンターに通い、足腰のトレーニングも重ね、その努力の甲斐あって今の体力を維持しているのだろう。

食事のとき、3月に入籍結婚した我が家の長男が4月に二人で初めて我が家を訪れてくれた時の写真、その時の話、お嫁さんの両親から届いた我が家の宝物である素敵な手紙のすべてを両親に読んで聞かせた。両親も大変喜んでくれた。

チェックインを済ませ、四部屋並びの部屋に入った。両親の部屋を弟夫婦、私たちが囲み、私たちの隣を妹夫婦の部屋にした。大阪見物をしていた弟夫婦も着き、大阪城公園に寄って遅れてホテルに着いた妹夫婦も揃い全員集合となった。

父はこの日のために背広を新調していた。3月に名古屋へ帰ったときに、頼まれて一緒に買いに行き、選んだものである。ネクタイ締めを頼まれたが、私は夫のネクタイを締めることもないので、夫に頼んで父のネクタイを締めてもらった。

6時からお祝いの宴が始まった。まず父の挨拶。自分の父親が77歳で亡くなっているのに、自分が90歳を迎えられるとは思っていなかったとのこと。とてもしっかりした口調での挨拶に、頭はしっかりしていると思った。

乾杯のあと、おいしい料理と楽しいおしゃべりで、お酒もいつも以上に進み、皆上機嫌で、大変楽しい宴会となった。私たちにとって両親が元気で長生きしてくれ、こんな喜びの会が家族そろって持てるのは本当に幸せなことだとつくづく思った。

二次会は恒例の両親の部屋に全員集まり、それぞれ持ってきた酒の肴やお酒でさらに

盛り上がった。深夜にそれぞれの部屋に戻ったのである。

次の朝は9時前にホテルを出て、2台の車で父の出身地奈良県北葛城郡王寺町へ全員で向かった。そして父の両親が眠っているお墓へ直行した。すでに父の妹たち（父は9人兄弟の3番目で、すでに兄、姉は他界、今回すぐ下の妹、その下の二人の妹、妹の長女が集まってくれた）が来て、お墓の草引きをしてくれていた。全員でお墓の掃除をした後、お花を飾り、お線香を焚き、お水をかけてお参りした。気持ちがよかった。

そのあと、父の実家（兄が建て替えたので父が育ったうちではないが）へ移動した。昨年、京都で集まったとき、お墓参りはしたが、父の実家には寄りなかつた。というのも、父の実家は、今は誰も住んでいないからだった。父の兄が亡くなり、その兄の長女が跡を継いだ、長女も7年前に他界、その夫である養子さん(大阪在住)が月に一度家を開け、実家を守ってくれている。今回我々が行くのに合わせ、養子さんが家を開け、お寺さんと呼んでくださったので、皆が集まったところでお経をあげてもらい、私たちはご仏壇にお参りすることができた。父はしきりにこれが最後だと言っていた。父同様高齢の妹たちもいい機会を作ってもらったと大変喜んでた。

父の父（祖父）は子煩悩な人で、健在だったころ、9人の子ども、孫たちを毎年お正月に集めては、大変にぎやかな時間を作ってくれた。私自身、子供の頃は毎年のように来ていたが、新しいうちになってからは訪れる機会もなく、本当に何十年ぶりかの訪問が実現したので、うれしかった。

お昼は近くの和食の店で、大広間を借り切って、叔母三人、従妹一人、養子さんを含め13名の大宴会となった。色々昔話も出て、楽しいお食事会だったが、父のこれが最後だという言葉の重みがひしひしと感じられた。お墓参りも実家への訪問もこれを最後にするという宣言だった。今後の残された時間を考えてのけじめということなのだろうか。私たちにとっても父の実家へ来るのはもう最後になることだろう。この時を大事にしたいと強く思った。

私たちは2時過ぎ一足先に失礼してJR王寺駅からJRを乗り継いで松山に帰った。うちに着いたのは9時ちょっと前だった。

仕事の合間をぬってのかなり厳しいスケジュールだったが、父の大きな大きな90歳という山を乗り越えた祝いの席に出られたこと、父の、実家へのお別れの場に立ち会えたことは、私にとっても大きな意味を持つに違いない。

父には9月に東京で行う予定のうちの長男の結婚式を次の目標に、トレーニングに励んでもらいたい。両親が元気でいてくれることが次の世代の我々の元気の源になる。そして、それが次の世代への刺激となって続いていくのだろう。(T・H)

雑感

梅雨入り以降、ほぼ連日の雨に、周りの景色は灰色にかすんでいます。

鹿児島県や宮崎県えびの高原では6月に入って18日15時までに1200mmを超える雨量を記録し土砂崩れが多発。日本中で活発な梅雨前線や大気の状態が不安定なことによる落雷、突風、雹、局地的な豪雨などの被害が出ていることを思えば、文句は言えないとは思いますが、梅雨と言うにはあまりにも強すぎる雨と梅雨寒の日々に、いささかうんざりしています。

エルニーニョ現象が強まっている為、梅雨明けが遅くなるとの報道もありました。

梅雨に似合うアジサイも花卉が傷んで可哀想です。

昨年の御嶽山の噴火に続き、西ノ島、箱根山、浅間山、桜島、阿蘇山、口永良部島など各地で火山活動が活発になっています。

口永良部島の新岳では5月29日に爆発的噴火が発生し全島民が島外に避難している中、6月18日、19日に再噴火が確認されました。九州電力は5月29日の爆発的噴火以降、島内の火力発電所を遠隔操作し、気象庁の監視カメラなどの観測機器や島民の冷蔵庫などの為、電力の供給を続けてきましたが、6月18日以降、全域で停電し、その原因は不明で復旧作業のめどは立っていないとのこと。避難している方々や観測を続けている火山学者にも疲労の色が濃くなっています。そんな中、「マグマがどんどん出てくれるのは良い事。全部出しまえば終わる。そう考えなくては。」と語る、避難男性の言葉に胸が痛みます。

震度5弱以上の地震も頻発しています。

2月6日：徳島県牟岐町で5強、海陽町で5弱。2月17日：青森県階上町で5強、岩手県普代村で5弱。パプアニューギニア沖では3月30日のM7.5の地震に続き、5月5日にはM7.4地震がありました。4月25日のネパールでのM7.8の大地震はエヴェレスト登山者にも大きな被害を与えました。5月13日：岩手県花巻市で5強。5月22日：奄美大島近海で5弱。5月25日：茨城県で5弱。5月30日の小笠原諸島西方沖を震源とする速報値M8.5の地震は北海道から沖縄までの広範囲で震度5強から1の揺れを記録しました。震源が非常に深かった為、巨大地震にも拘らず、最大震度が5強にとどまったのは不幸中の幸いでした。

1980年代、憧れの日本で母国の名がゆえなく風俗業に使われていた「トルコ風呂」

と呼ばれた特殊浴場の俗称に衝撃を受け、義憤から政官界に働きかけ、変えさせた元東大留学生ヌスレット・サンジャクリ氏は後年、地震学者となり、今また安倍首相の売り込みでエルドアン氏が日本の原発購入を決めたことにいたく失望しているといっています。

「地震学者が危険性を言っても無視される。なぜこんな地震国が原発を輸入しますか。おかしいですよ」(朝日新聞 6/14 日曜日に想う 山中季広 より)。フクシマのことが何一つ解決していない日本のリーダーが他国に原発を売り込むこと自体その神経を疑いますし、恥ずかしいと思います。

鹿児島県の川内原発では着々と再稼働に向けた準備が進んでいます。

原子力規制委員会は原子力推進委員会だという声さえ聞こえてきます。

政府の電源構成案でも 2030 年度の原発の割合は 20~22%を保つと経産省が示しています。怖いもの知らずとしか思えません。

昨年 7 月集団的自衛権行使容認を閣議決定した安倍首相は、国会に法案を提出する以前に、4 月 29 日アメリカ議会で安全保障関連法案をこの夏までに成就させると表明し、野党からは国会軽視だとの抗議が続きました。

安全保障に関連する 11 もの法案を一括して今国会で審議、決定しようとするやり方は、数に物を言わせて、何が何でも、今の内に、集団的自衛権の行使を可能にする法整備をしようとしているとしか思えません。

6 月 4 日に開かれた衆議院憲法審査会では自民、公明両党が推薦した学者を始め参考人として出席した憲法学者 3 名全員が、集団的自衛権は違憲であるとの意見を述べました。その後多くの憲法学者が違憲だと署名しています。

しかし、その後、法の番人であるべき内閣法制局長官はフグ料理や毒キノコなどを例に挙げて、政府、与党の意見を後押しするような姿勢を見せています。

自民党議員からは国民の安全と平和は政治家が責任を持つのであり学者は責任を持たない、などの声も聞かれます。しかし、違憲であると言う学者の言葉は重く受け止めるべきだと思います。その上で、どうしても集団的自衛権を認めたいのであれば、憲法を変えるための手続きを踏むべきです。

嘗て、日本は、金は出すが人は出さない、と言われたことや、日本はアメリカの核の傘に守られてのうのうと平和を貪っている、と言われていることなどから、私達日本人の間にアメリカの兵士が命をかけて戦ってくれているのに、という負い目が有ることは否めないように思います。それでも、戦争は絶対悪である以上、武力に因らない解決法を絞り出して欲しいのです。

日本国憲法が GHQ の草案によってつくられたことは広く知られていますが、9 条に「平和」と言う言葉を入れたのは GHQ ではなく日本人だったと 5 月 8 日朝日新聞社説余滴で国分高史氏が書いています。それによると、『GHQ から草案を渡された日本政府が作った 9 条案には「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」との冒頭の一節は無かった。この一節が加わったのは政府案を審議した衆院の「芦田小委員会」での修正の結果だ、と憲法制定の経緯に詳しい古関彰一独協大学名誉教授から教わった。古関氏は「武装解除と戦争放棄という敗戦国への主権制限に過ぎなかった 9 条が国際平和という価値を掲げる条項へと性格が変わった」と位置づける。

これこそ 69 年前、議会在憲法に残した「積極的平和主義」ではないか。

GHQ に押し付けられた側面はあったが、そこばかり強調するのはそれこそ先人の知恵を無視した自虐的な歴史観ではないか。』としています。

私達一人一人が今一度、真剣に、9 条を手放して良いのかどうか考えてみる必要があります。現在、宗教観、民族意識、格差、覇権争いなどから国家間、民族間の紛争や対立、集団によるテロが顕著になっています。

もし、全世界のあらゆる国がこの 9 条を掲げ、一人一人がその精神を具現することが出来たら、もっと住みやすい優しい関係になれるのに、と思いながら、長雨の日々、1949 年に書かれた、ケストナーの“動物会議”を読み返しました。

『ライオンのアロイス、キリンのレオポルド、像のオスカーは怒っていました。人間たちは会議ばかりして、大切なことを何一つ決められず、子供たちが可哀想だ、と。動物たちは最初で最後の会議を開き、人間に自分たちの要求を認めさせました。

①国境をなくす。

②軍隊、兵器は全てなくす。

③秩序を保つための警察は弓矢で武装。警察はとくに、科学と技術がもつぱら平和に使えるように監視。殺人科学は研究されない。

④役所、役人、書類筆筒は最小限に減らす。役所は人間の為の有るのであって、その逆ではない。

⑤今後、一番良い待遇を受けるのは教育者とする。子供をほんとの人間に教育する任務は、一番高い、一番重い任務である。真の教育の目的は、悪いことをだらだらと続ける心を許さない、と言うことでなくてはならない。』

今なお色褪せず、私達に突き付けられている問題ばかりです。

66 年間に科学技術は格段に進歩しましたが、人間は学ばない生き物だどつくづく感じたことでした。

進歩し過ぎた科学技術に弄ばれている感すらあります。

日本年金機構に侵入した標的型ウイルスとその後のお粗末な対応によって漏洩した膨大な個人情報。

昼夜関係なく全天候型の産業や生活を支える為のエネルギー消費によってもたらされるとも思われる異常気象。

動植物の聖域までも開発を進め、地球規模での移動が日常茶飯になったことと無関係ではない様々な感染症に怯える日々。

梅棹忠夫氏の「知的生命体である人間は滅びの道を突き進んでいる」との言葉や、手塚治虫著の、永遠の命を持った火の鳥が、何度滅亡を繰り返しても同じ過ちを犯す人間に絶望しながらも、「今度の人類こそ、きっとどこかで間違いに気がついて…生命を正しく使ってくれるようになるだろう」という言葉を思い出しています。

日々の報道に接するたびに苛々することの多い昨今ですが、玄関から一歩外に出るとワクワクが私を待っています。

4月。

此方に来て初めてジャコウアゲハに出逢いました。近所の竹林に出かけた時、たまたま法面のアザミに黒いアゲハチョウがとまっていました。思わず写真を撮ってみると赤い腹部が見えます。早速、くらしの学習会の仲間に写真を見てもらい、ジャコウアゲハだと言ってもらった時の嬉しかったこと。綾にはウマノスズクサは無い、と言われていたので諦めていましたから嬉しさはひとしおでした。

近所のお宅のミツバツツジを見せてもらいに出かけると、立派なミヤマカラスアゲハがモデルになってくれました。ミヤマカラスアゲハを見たのは生まれて初めてでした。

裏の木立では、カワトンボ（期待を込めて、きっとアサヒナカワトンボの♀だと信じているのですが）に釘付けになりました。細いながらも存在感のある凛とした姿でした。

生涯学習に出かけた町の公民館の駐車場では手を伸ばせば届きそうなクスノキの細い枝でシジュウカラが可愛い声で迎えてくれました。

5月。

センダンの薄紫、サラサウツギの薄紅色が美しい季節。遠くからホトトギスの歌が聞こえてきます。

洗濯物を干しているとインガケチョウが遊びに来てくれました。お隣のトマトの苗の雨避けの小さなビニールハウスでミヤマサナエが翅を休めていました。

毎日、セッカがヒッヒッヒッヒと高く囀りながら舞い上がり、チャッチャッチャと啼きながら川原に急降下しているので、近くで見てみたいと思って、土手を歩いていました。とても近くでウグイスの囀りが聞こえます。思わず、川原と反対の我が家の裏の木立に目をやると、丁度、繁った葉の隙間の枝でウグイスが胸を張り、咽喉元を膨らませて自慢の歌を披露している最中でした。囀っているウグイスを見るのは初めてです。興奮しました。最高に幸せなワクワクに包まれた時間でした。ただ、今まで、私がオオルリの囀りだと思って聞いていた歌は、ウグイスの複雑な歌の一部だったということも判明してしまった瞬間でした。

中旬から夜毎、窓越しにホタルの舞を楽しんでいます。去年は家の前の水路の補修工事の為か、殆ど見る事が出来ませんでした。今年、毎晩 15 分位眺めていると 5 ~6 匹のホタルを見る事が出来る様になりました。

夫が間引いて来た人参の葉にアゲハチョウの幼虫らしいものが付いていました。幼虫が付いている葉をちぎって、子育て上手な我が家の肝っ玉母さん、フェネルの上に置いておきました。どんどん大きくなって、キアゲハの幼虫になりました。その後、姿を見せません。何処かで蛹になってくれていることを祈っています。

6月。

庭の至る所からネジバナが現われはじめました。庭が紅色に霞んでいます。白花のネジバナも増えました。歩くときはよほど気を付けないと踏んでしまう位です。草刈りの時、一緒に切り取ってしまうことも有ります。小さな容器に活けてみました。さすが蘭の仲間だけあって水揚げも良く、長く楽しむことが出来ました。

ネジバナには様々な蝶がリボンのようにとまっています。今日(21日)、今年初めてのウラナミシジミがとまっていました。

先日、モッコウバラの新芽でルリシジミがじっとしていました。後で新芽を見ると小さな丸い菊饅頭のような卵が産み付けられていました。シジミチョウの卵を見るのは初めてです。新芽を選ぶのは孵化した子供を想う母の愛でしょうか。

我家には友人から貰った小さなキハダの苗が 6 鉢有ります。先日、一番小さな苗の葉に小さな幼虫が 5 匹。どう考えても共倒れです。子育て上手な花柚の木の下に鉢を移しました。次の日、無事に幼虫たちは花柚の葉に移っていました。一安心です。雨が小降りになった時、時々見て回りますが、幼虫たちはとても活発であちこちに場所を変えています。キアゲハやナミアゲハではないのかもしれませんが。我が家では、キアゲハやナミアゲハはあまり行動範囲が広くない印象です。

一番大きなキハダの葉でヤマトシジミのような少し黒っぽいシジミチョウが産卵の

姿勢でとまっていました。飛び立ったあと見てみましたが、卵は見つかりませんでした。
ショウジョウトンボの鮮やかな赤色が誇らしげです。

巣立ったばかりの幼いツバメが餌をねだって電線で口を開けて並んで騒がしく啼き
たてています。親鳥は忙しく低空飛行を続けています。

雨ばかりで大五郎も杏も殆ど屋内です。2匹でいると退屈することも無いようで機嫌
よく日々を過しています。ただ、恋の季節から2か月以上が経過し、もしかして二世誕
生？との淡い期待は今回も実りませんでした。残念ですが私たち夫婦の思い通りにはい
かないようです。

先日は恒例のノミ、ダニ除けのスポットの日でした。大五郎は大きな体の割に臆病な
所があり、スポットが嫌いです。いつも、夫と二人がかりで何とか済ませるのですが、
今回は自分から進んで首を差し出しました。少しずつ、子供の頃のトラウマが消えてく
れているようで最高に嬉しい一日の始まりでした。

改正公職選挙法が成立し、来年の参議院議員選挙から選挙権が18歳に引き下げられ
ることになりました。

今年の東京大学教育学部の卒業式で学部長の石井洋二郎さんが卒業生に贈った、何事
も鵜呑みにせず自分で確かめる様に、という式辞を心に刻んで選挙に臨んでほしいもの
です。

要約

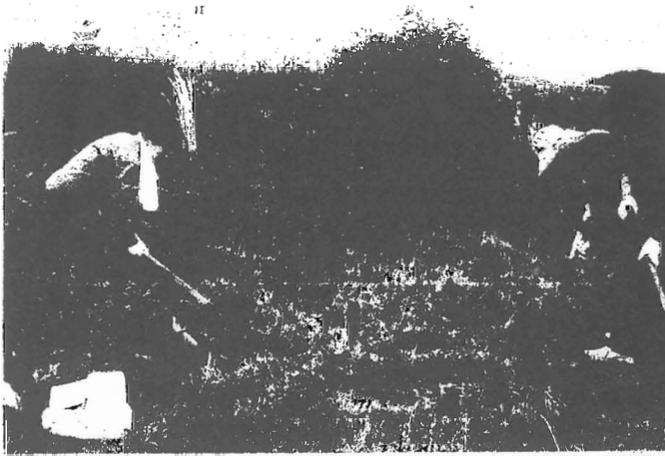
《1964年、当時東京大学の総長であった大河内一夫先生が卒業式で語ったとされる
「大河内総長は『太った豚より痩せたソクラテスになれ』と言った」という有名な語り
伝えには三つの間違いが含まれています。まず「大河内総長は」とい主語が違うし、目
的語になっている「太った豚よりも痩せたソクラテスになれ」というフレーズはジョ
ン・ステュアート・ミルの言葉の全く不正確な引用だし、おまけに草稿には書いたが卒
業式ではその部分は語らなかったの「言った」という動詞まで事実ではなかった。

早い話が主語、目的語、動詞、全てが間違いでただの一か所も真実を含んでいない。

毎日、触れている情報、特にネットで流れている情報の大半がこの種であると思った
方が良いでしょう。本来作動しなければならない筈の批判精神が、知らず知らずの内に機能不全
に陥ってしまう。ネットの普及につれてこうした事態がますます顕著になっている。教
養の本質は情報の真偽を自ら確かめる事だと思えます。》

心に留めて日々を過ごしたいと思いました。

(K.O.)



2004年4月26日 ウミスズクサ移植
本文17ページの活動時の
写真



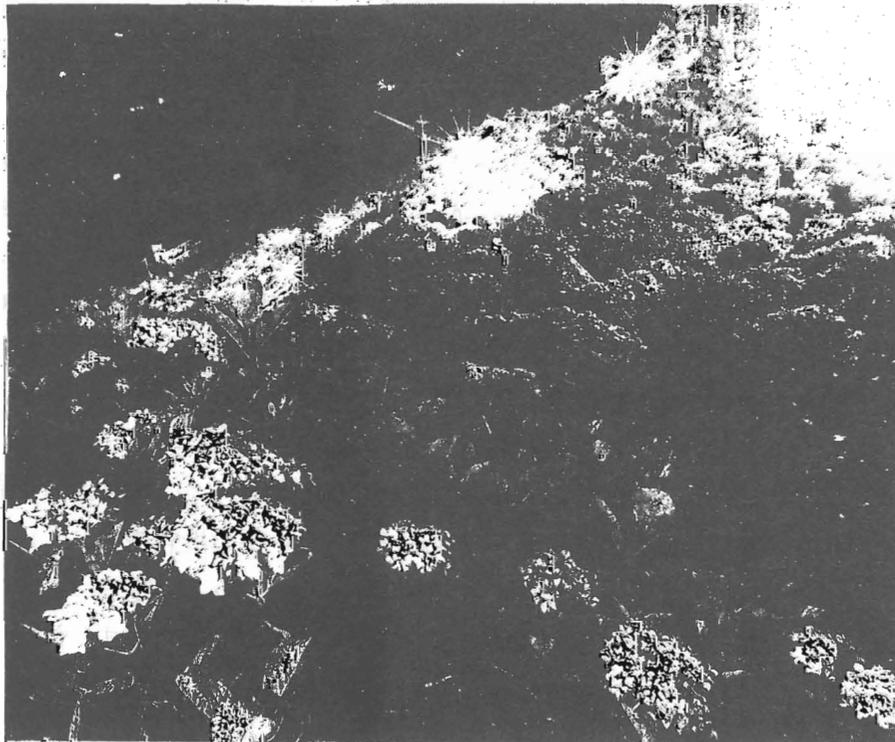
アジサイ 幻想の明かり

(本文8ページ 6月例会)
愛媛新聞 2015.6.23 8頁

四国中央 2万株ライトアップ

約2万株のアジサイが咲き誇る四国中央市新宮町上山の「あじさいの里」で夜間のライトアップが始まり、山あいには幻想的な光景が浮かび上がっている。

あじさいの里は、上山簡易郵便局東の斜面約4畝。地元住民らでつくる新宮あじさいグループ（大西敬志郎会長）が花の世話をしており、15年ほど前からライトアップしている。21日夜も写真愛好家が三脚を構



ライトアップされた四国中央市の「あじさいの里」

え、熱心にシャッターを切っていた。28日は新宮あじさい祭り（午前10時〜午後4時）が開かれる。大西会長は「今は七、八分咲きだが、徐々に開いて祭りでは見頃になると思う。みんな草刈りなどを一生懸命しているの、気持ちを感じてもらえれば」と話していた。ライトアップ（午後7時半〜9時）は7月5日まで。（宮内佑己）

7月例会のお知らせ

7月11日(土)

10時中央公民館集合 愛媛大学へ行きます

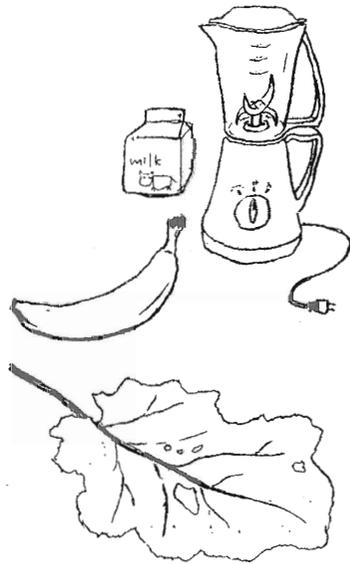
○愛大ミュージアム特別展「宇宙の果て」

○昼食後：南加ホールにて 講演会「宇宙への招待」

編集後記

1年ぶりに井戸端だよりの編集をした。
前回パソコン操作を娘に教わったはずなのにすっかり忘れていた。カットの絵が取り込めない、文字の行間が変えられない、パソコンはまちがいを指摘してくれないから、動かなくなるとお手上げ。パソコンも無言、私も無言で、にらみ合い。結局家族に助けられて何とか仕上がった。最近ハマっている野菜ジュースを飲んで頭を冷やしてから、もう一度パソコン操作を復習することにする。

(K.K)



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com